

事例番号:290031

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第一部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 40 週 6 日

18:31 陣痛開始のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 41 週 0 日

4:00 破水

7:05 微弱陣痛のためオキシトシン注射液による陣痛促進開始

8:50 頃- 胎児心拍数陣痛図にて変動一過性徐脈あり

9:10 頃- 胎児心拍数陣痛図にて繰り返す遷延一過性徐脈あり

9:25 子宮底圧迫法併用の吸引分娩開始

9:38- 胎児心拍数陣痛図にて基線細変動の消失を伴う胎児徐脈あり

9:45 子宮底圧迫法併用の吸引分娩 4 回施行するが見娩出に至らず

10:30 胎児仮死の診断で帝王切開にて見娩出

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:41 週 0 日

(2) 出生時体重:3374g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:実施せず

(4) アpgar スコア:生後 1 分 2 点、生後 5 分 4 点

(5) 新生児蘇生：人工呼吸（バッグ・マスク）

(6) 診断等：

出生当日 新生児仮死、低酸素性虚血性脳症

(7) 頭部画像所見：

生後31日 頭部 MRI で低酸素・虚血を呈した所見（多嚢胞性脳軟化症、大脳基底核・視床の信号異常）を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分：診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 3 名

看護スタッフ：助産師 2 名、看護師 2 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩経過中に生じた胎児低酸素・酸血症であると考ええる。

(2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、臍帯圧迫に伴う臍帯血流障害により胎児が低酸素の状態となり、子宮底圧迫法を併用した吸引分娩により低酸素の状態が悪化したことであると考ええる。

(3) 胎児の低酸素状態は、妊娠 41 週 0 日の 9 時 10 分頃よりはじまり、出生時まで胎児低酸素・酸血症が進行したと考える。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 41 週 0 日に微弱陣痛のため陣痛促進の方針とし、書面にて説明と同意を行ったことは一般的である。

(2) 子宮収縮薬（オキシトシン注射液）の投与方法について、開始時投与量（5%ブドウ糖注射液 500mL+オキシトシン注射液 10 単位を 6mL/時間から開始）、および陣痛促進中の分娩監視の方法は一般的である。

- (3) 子宮収縮薬(オキシトシン注射液)の投与方法について、オキシトシン点滴(5%ブドウ糖注射液 500mL+オキシトシン注射液 10 単位)を妊娠 40 週 6 日 8 時 8 分に 18mL/時間に増量した後、8 時 35 分に 24mL/時間に増量したことは一般的ではない。
- (4) 胎児心拍数陣痛図上、繰り返す遷延一過性徐脈が認められ、子宮口全開大、児頭の位置 Sp±0cm の状態で子宮底圧迫法を併用した吸引分娩を行ったこと、施行方法は一般的である。
- (5) 吸引分娩 4 回にて児娩出に至らず、胎児仮死の診断で緊急帝王切開を実施したことは医学的妥当性がある。
- (6) 帝王切開決定から 45 分で児を娩出したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バググ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)は一般的である。
- (2) 高次医療機関 NICU へ新生児搬送したことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 子宮収縮薬(オキシトシン注射液)の使用については、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」に則した使用法が望まれる。
- (2) 妊産婦に説明した内容と同意が得られたことについては、診療録に正確に記載することが望まれる。

【解説】本事例は帝王切開に関する説明・同意についての記載がなかった。妊産婦に対して行われた説明内容等は詳細を記載することが必要である。

- (3) 胎盤病理組織学検査を実施することが望まれる。

【解説】胎盤の病理組織学検査は、新生児仮死が認められた場合には、その原因の解明に寄与する可能性がある。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

- (1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して  
なし。